

(様式6-3)

研修等 報告書

令和6年1月22日

三田市議会議長 森本 政直 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	
		議員名	檜田充
参加者氏名	檜田充		
講演会等研修名	地方議員研究会 with コロナ時代の地域公共交通特別講座		
研修事項	・ 地域公共交通活性化再生法の改正と地域公共交通計画 ・ 共創による地域公共交通のR・デザインと自治体の関わり方 ・ 交通DX/GXを活用したこれからの公共交通		
日 時	令和6年1月17日(水曜日)～ 令和6年1月18日(木曜日)		
場 所	東京都千代田区丸の内3丁目1-1国際ビル2階会議室		
所 見	別紙参照		
添付資料	・ 講座配布資料(抜粋)(3講座分)・ ・ ・ ・		

6 添付書類(講演会内容のパンフレット等)

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、参加者氏名は不要)

## (所見)

### 講座の主な内容

#### 《地域公共交通活性化再生法の改正と地域公共交通計画》

- ・地域公共交通活性化再生法の改正—2020年：自治体・事業者・地域が一体となり公共交通の活性化・再生に取り組む
- ・活性化再生法から地域交通法へ2023年：地域公共交通の再構築を実現
- ・地域公共交通計画の役割：地域の輸送資源を総動員し持続可能な旅客輸送サービスを提供
- ・地域公共交通計画策定時・見直し時のポイント：
  - ① 補助金もらうためのアライバイ計画になっていないか
  - ② 検討することは計画ではない
  - ③ 課題⇔目標⇔指標の関係性
  - ④ 計画策定に必要な要素
  - ⑤ 関係性の再構築と役割の再確認  
自治体担当者と交通事業者の連携がないと様々な計画・制度を有効に使えない。

#### 《共創による地域公共交通のリ・デザインと自治体の関わり方》

- ・コロナが与えた地域公共交通への影響：休止・減便による赤字低減ではなく需要の平準化による輸送資源の再配分
- ・交通事業者への支援と利用促進：乗って残そうが全てではないけど、乗らないと残らないのは絶対！
- ・交通崩壊は始まっている：
  - ① 国・自治体からの継続的・大規模な支援や関わり方見直しが不可欠
  - ② 利用促進や赤字補填から主体的なサービス設計や所有リスクを負うことへ
  - ③ ソフト施策による利用促進に加えて、ハード整備による利便性の向上
- ・地域交通のリ・デザイン：利便性・持続性・生産性を高め地域公共交通の再構築（リ・デザイン）を推進
- ・共同体（コミュニティ）で支える仕組みづくり
  - ① 運賃や自治体からの補助で足りない分を補っていく仕組みが必要
  - ② 自己負担と社会保険の割合をみんなで話し合おう
  - ③ 陳情では何も変わらない。あなたにもできるのは「1回乗ってみる」こと

## 《交通 GX/DX によるこれからの地域公共交通》

### ・CASE による自動車技術の変革

- ① カーボンニュートラルの達成には乗り換え年数を考えるとすでにギリギリ
- ② 電動化しただけではあまり減らないし、乗り合っても「脱」にはならない
- ③ 一度に多くの人を運べるので（たくさん乗ってれば）環境にやさしい
- ④ バス・鉄道の走っている距離はかわらないけど乗ってる人が減ったので大幅に悪化
- ⑤ 16m/秒で移動する車両を数cm単位で安全に制御する技術が必要

### ・公共交通オープンデータを活用した ICT 技術との連携

- ① スマホを使えないからやらないではなく使えない高齢者にどう対応するか
- ② DXとはデータをつくることではなく、データがある前提で提供されるサービス
- ③ 元となるデータは同じでも利用者が求める情報に変換することが重要

### ・MaaS による地域公共交通の活性化

- ① サービス同士を「束ねる」、新しいサービスを「増やす」
- ・タクシーサービスの高度化とライドシェア
- ① 最も便利な公共交通機関のはずなのに「不安」が理由でつかわれない
  - ② ライドシェアとは相乗りのこと、タクシーの高度化や自家用有償旅客運送でできる
  - ③ 地域に必要なものが何かを考えて取り組む（選ぶ）ことが重要

## 所見

大変興味深い内容であった。全国各自治体での取り組みを紹介しながら、利点や足りない視点等について指摘をされながらの講義で良かったと思う。

全国各市町村で公共交通の維持に取り組まれているが、法規制や利用者減等からなかなか成果があがっていないのが現状ではないか。さらには、運転手不足等も相まって益々状況は厳しくなっている。補助のありかたについても今一度考えてみる必要があるのではとの思いもした。